

重度片麻痺患者の早期リハビリテーションでは  
長下肢装具による歩行訓練より  
起立-着席運動を推奨する

医療法人 羅寿久会 浅木病院

○高畑 起世子(PT) 篠原 敦(PT) 小田原 創(PT) 加来 剛(PT)  
三好 安(MD) 大里 隆(MD) 三好 正堂(MD)

# はじめに

重度片麻痺患者の早期リハには長下肢装具を用いた歩行訓練が多く行われているが、当院では歩行訓練よりも起立-着席運動を優先して行い、歩行獲得に繋げている。

その治療成績を報告する。



# 対象

- ①過去8年間に入院(2009年12月～2017年12月)
- ②発症前は屋外独歩自立
- ③初発の重度片麻痺(下肢Brunnstrom stage I・II)

①～③を満たした 54例

除外12例

- ・ リハビリに協力が得られなかった 11例
- ・ 他疾患で転院した 1例

**対象者 42例**



## 結果① 基本情報

脳梗塞：12例 脳出血：29例 <も膜下出血：1例

右麻痺：20例 左麻痺：22例

年齢：平均  $61.8 \pm 11.0$  歳 (36～87歳)

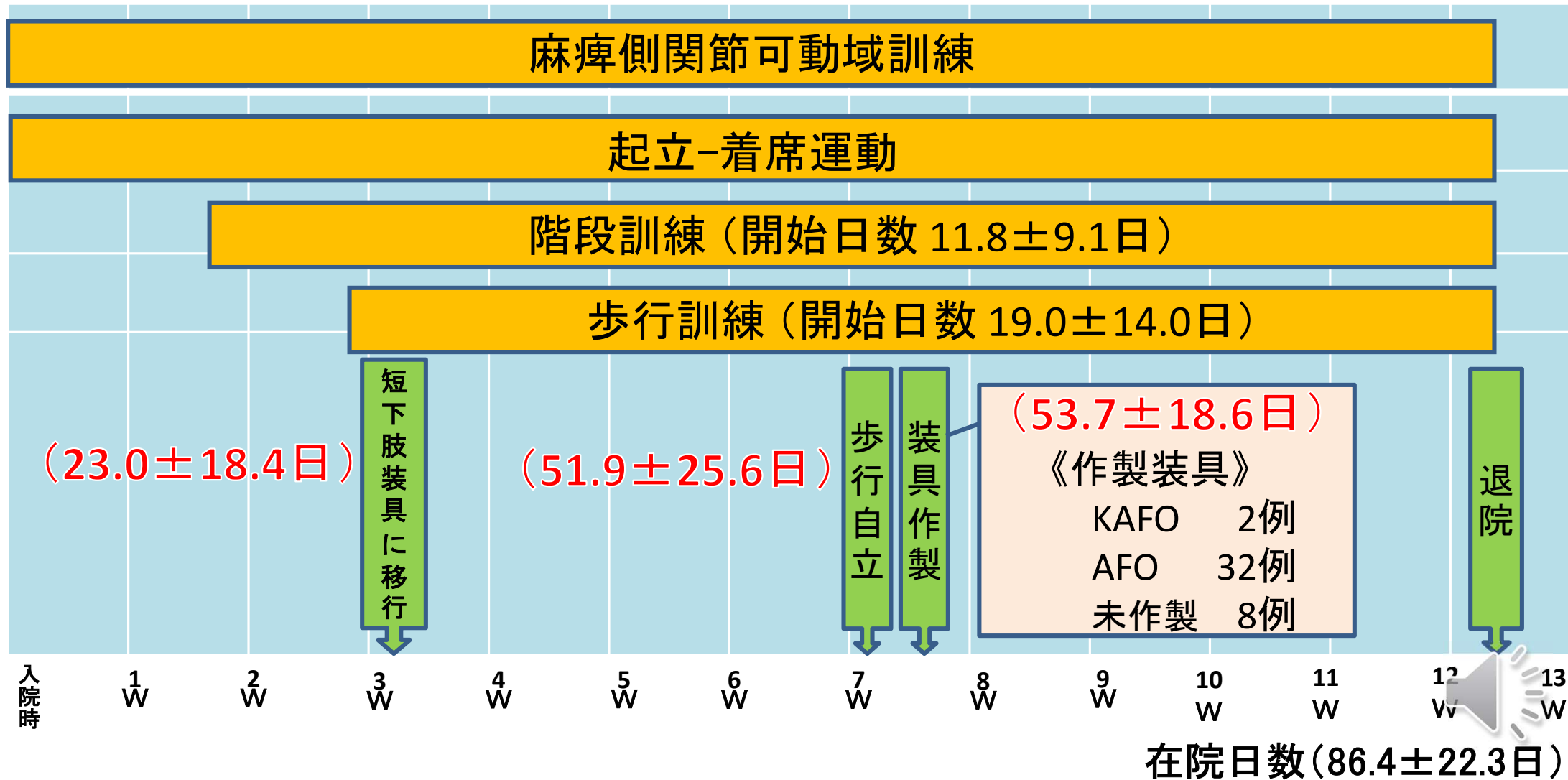
男性：26例 女性：16例

入院前日数：平均  $28.9 \pm 16.1$  日 (10～80日)

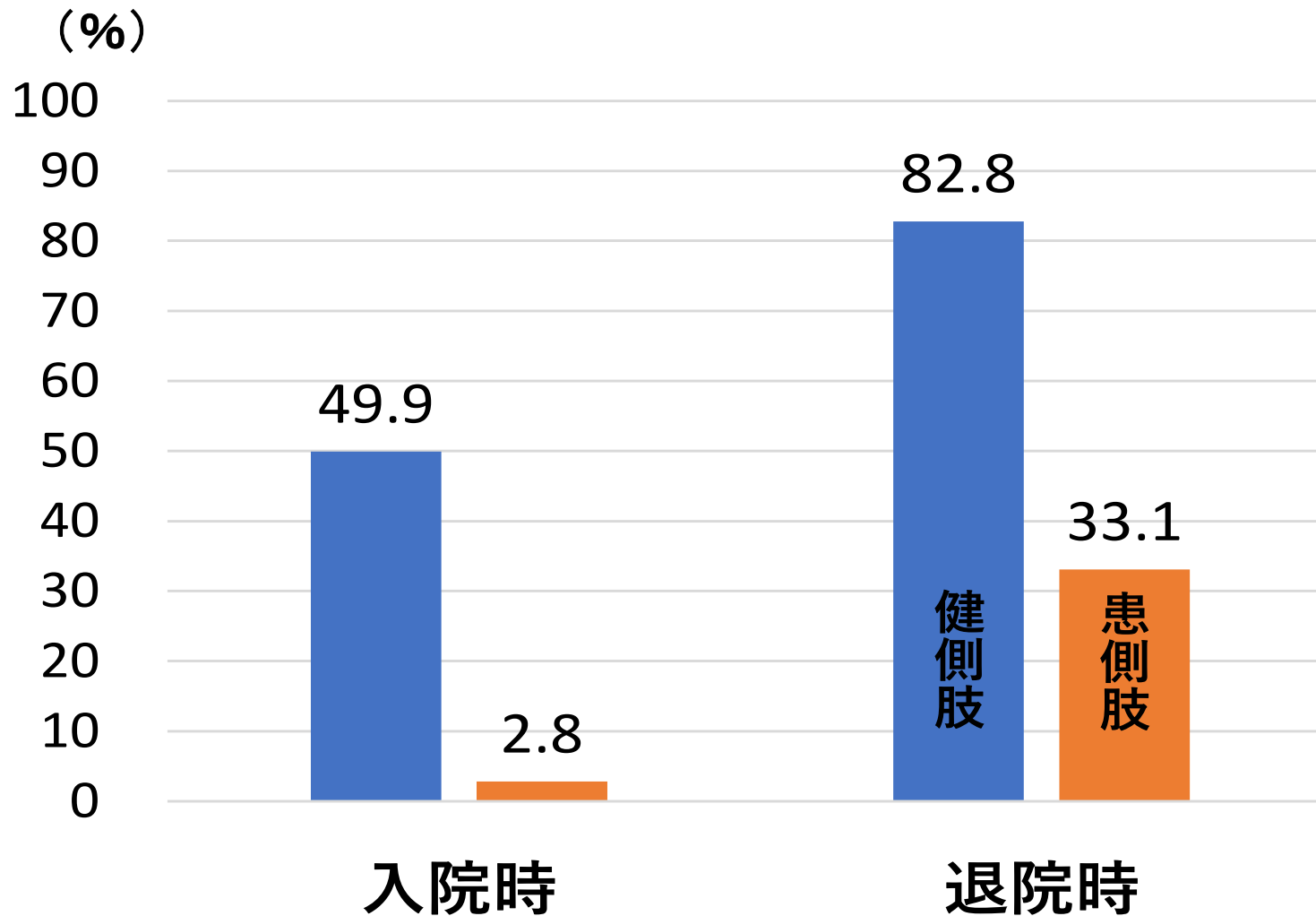
入院時下肢Brunnstrom stage：Ⅰ：13例 Ⅱ：29例



## 結果② リハビリ内容と経過 (平均±標準偏差)



### 結果③ 入・退院時の膝伸展筋力健常者比



## 結果④ 入・退院時の下肢Brunnstrom stage

N=42

退院時 入院時	I	II	III	IV	V	VI
I (13例)		5	5	3		
II (29例)		5	16	3	2	3
合計 (42例)		10 (23%)	21 (50%)	6 (14%)	2 (4%)	3 (7%)



## 結果⑤ 入・退院時の歩行能力

N=42

退院時 入院時	全介助	多介助	中等度 介助	少介助	監視	自立
全介助 (8例)				1	5	2 (25%)
多介助 (21例)				4	7	10 (48%)
中等度介助 (13例)				1	2	10 (77%)
合計 (42例)				6 (14%)	14 (33%)	22 (52%)

歩行自立日数：平均51.9±25.6日（13～101日）



## 文献比較(入院時KAFO使用者の治療成績)

	入院時下肢BRS (Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ/Ⅴ/Ⅵ)	AFO 移行率	歩行 自立率	在院日数	自宅 退院率
当院 平均 61.8歳 N=42	13/29/0/0/0/0	100%	52%	86日	93%
前島ら 平均 66.5歳 N=220	85/65/34/24/12/0	43%	43%	104日	62%

- 1) Shinichiro Maeshima et al: Lower Limb Orthotic Therapy for Stroke Patients in a Rehabilitation Hospital and Walking Ability at Discharge. International Journal of Physical Therapy & Rehabilitation 136(3):1-6, 2017.



## 考察

重度片麻痺患者の早期リハに対し、長下肢装具を用いた歩行訓練よりも起立-着席運動を優先して行い、歩行獲得に繋げることができた。

当院の進め方は長下肢装具の作製が最小限で済み、在院日数も短いことから医療費の抑制も示唆された。

